

平成 29 年度 自己改革への取り組み状況について

JA 大北では、組合員・地域に愛され支持される JA であり続けるため、将来を見据えた自己改革に取り組んでいます。

「自己改革は」、地域農業の繁栄と暮らしに JA がなくてはならない組織であることを目指す改革です。組合員・地域とともに一歩先の JA をめざし、平成 29 年度は下記の取り組みを行ってまいりました。

(1) 農業開発基金活用による地域農業振興への取り組み

当 JA を含む JA 長野県グループでは農業振興ビジョンの実践に向け、新品目・新技術の導入、新規就農者など生産者に直接支援を行うため「JA 長野県農業開発基金」を平成 21 年度から造成するとともに、当 JA 独自の「JA 大北農業開発積立金」を積み立ててきました。

当 JA ではこの基金を活用して次のような取り組みを行ってきました。

- ・園芸振興における苗、資材支援
- ・水稻春肥の予約注文による価格対策の実施
- ・農業経営支援対策：肥料・農薬支援
- ・重点品目における省力化機械導入支援
- ・農産物直売所：新規出荷者への苗代助成



直売所出荷の様子

(2) 農業所得増大、JA への結集力向上に向けた取り組み

- ・担い手、認定農業者との意見交換会の開催

管内の担い手農家、認定農業者と当 JA 役職員との意見交換会を全体のほか、北部ブロック、南部ブロック、中部ブロックごとに開きました。大北管内の認定農業者や農業法人経営者などが参加し、当 JA 役職員と管内の農業、JA 事業について意見を交しました。

各地区の担い手農家の皆様から頂きました率直な声を、JA 事業に反映していく考えです。



担い手農家意見交換会

農家組合員の皆様の農業所得を維持・確保し、農業基盤を守るため、各農業施設や設備の維持・更新の投資等を行っています。

- ・りんご選果機の更新

りんご選果場では、最新の選果機を導入し、8 月から稼働を始めました。新たな選果機は最新の透過型内部品質センサーを搭載し小型化されたもので、形状、糖度、熟度などの値がこれまでより高精度に計れるもので、専用最新カメラにより形状・着色・傷面積等を計測し、サビ果やキズの有無を安定して選果できます。



りんご選果場：新選果機

(3) 准組合員や地域の皆さんへ「食」と「農」の理解を深め、地域農業の応援団を拡大するための取り組み

- ・農業を知ってもらうための体験活動等を行っています。(青壮年部によるチャイルドファーム、安曇野まつかわ農業小学校ほか)
- ・リンゴオーナーを募集したほか、農産物直売所での地元農産物の消費拡大を進めています。
- ・学校給食への地元農産物の提供等、農業や地元農産物を理解してもらうための取り組みを進めています。
- ・准組合員の皆様や地域の皆様に農業・農協を理解してもらうために新規組合員募集キャンペーンを展開し、組合員加入促進を図りました。ホームページ等でPR致しました。



りんごの木オーナー

(4) 組合員や地域の皆さんとともに地域活性化に向けた取り組み

- ・組合員の意見を聞くため、支所運営委員会、地区別総代会、担い手との懇談会を開催しました。
- ・協同を担う人づくりとして「女性農業大学校」を開校しています。
- ・地域づくりの一つとして、買い物弱者を無くし、安心して暮らせるため、移動購買車の導入により生活を支えています。
- ・年金友の会等各組織において、様々な活動への応援を通じて、地域の仲間づくりに取り組みました。
- ・仲間づくりとして旅行やマレットゴルフ・ゲートボール大会を開催し、多くの皆さんに参加いただきました。



仲間づくりを広げるゲートボール大会

(5) 健康づくりと助け合い活動への取り組み

- ・高齢者が住み慣れたこの地で安心して暮らせるため、訪問介護・通所介護・介護予防支援・福祉用具貸与等の事業に取り組んでおります。
- ・4月に新たな介護保険に対応した通所介護事業「JA 大北デイサービスえくぼ」を大町市常盤の三世代交流施設「ふれあいプラザ」で開所しました。
- ・組合員の健康管理と病気予防を推進するため、JA 厚生連病院と連携し、人間ドック・PET/CT 受診者への助成を実施しました。
- ・行政からの委託を受け、総合相談、権利擁護業務、包括的継続的ケアマネジメント支援事業、介護予防支援事業、生活支援員派遣事業など、地域の介護支援と介護予防、併せ利用者拡大への取り組みを行いました。